

総論

満点	70点	目標得点	53点	試験時間	60分	偏差値	政治:75
大問数	5	小問数	50				国際政経/経済:74
【解答形式】		選択式	37/50問	記述式	12/50問	論述式	1/50問
【問題難易度】		C	4/50問	B	16/50問	A	30/50問
※問題難易度：C難問、B可否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す							

Topics

- 1：大問5題。第1・2問が古代～近世、第3～5問が近・現代史（戦後史1題）の出題は例年通り。
- 2：全て史料問題も例年通りだが、部門別の出題では、政治史・外交史が中心。文化史も要注意。
- 3：論述は、戦後の内閣単位の出題から、近・現代の内政・外交の重要テーマを問う出題に。

こんな力が求められる！

1. 史料を通して日本史を見る力を備えよう。本学部の問題はすべて史料問題であると覚悟したい。テキストと史料集を繰り返し読み、問題を一見しただけで、頻出史料の場合はその関連事項が出てくるようにしたい。次に、未見史料を積極的に読むトレーニングしたい。前期はお茶ゼミの問題集、後期は本学部の過去問の検討が一番だろう。問題演習も積極的にこなそう。
2. 幅広い知識を身につけよう。設問形式は、選択問題が多い。文章の正誤問題が主流とはいえず、下線部の該当用語の選択や、空欄補充の問題が多い。それも難易度が高い設問、分野にこだわらない設問、事柄・人物を多面的に問う設問などがみられる。脚注をもふまえたテキストや教科書の理解、用語集や史料集を丹念に読みこなし、幅広い知識を養おう。記述問題もこの方法で対応できる。
3. 近世まではバランスよい学習、近・現代に最重点をおいて学習を。(1)近世まで：原始時代の出題はまずない。古代以降は、各部門をバランスよく出題してくるので、各分野の重要な出来事を的確にマスターしておきたい。古代・中世(出題頻度が一番低い)はさほど難題は出題されず、近世がやや難しい問題が多くなる。(2)近・現代：明治期、大正・昭和期、戦後期から各1題出題され、配点の6割位はこちらにある。したがって近・現代に力点をおいた学習が不可欠。憲政史を中心に政治史、社会運動史、外交史、文化史では思想・学問・文学史などを軸に学習すること。

参考図書

お茶の水ゼミナール・テキスト・史料集や問題集。山川出版社『詳説日本史 B』・三省堂『日本史B』。山川出版社『日本史B用語集』・山川出版社『詳説日本史史料集』。

大問別分析

【I】

予想配点	14 / 70点(選択1点・記述2点以下も同じ)	時間配分の目安	10 / 60分
出題分野・テーマ	壬申の乱・関ヶ原の戦い		
使用されている資料	史料		
出題形式	選択・正誤・記述		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連			

高3生：前期3月期古代・6月期近世。後期11月期政治史で履修。

●解答のポイント&学習対策&小問別等

※文章中、C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、で問題難易度を示す

本学部の出題史料は、未見史料も多いが、設問のなかにヒントがあるのが特色。あわてず解いていくと、正解の流れがつかめる。

A. 史料(1)の「天命開別天皇」と古風な諡あめみことひらかすわけと「大皇弟」から、大体の時代とおぼろげな人的関係が、文章(2)の「(最初の)太政大臣」・「近江朝廷」・「吉野」・「白村江の戦い」などから壬申の乱を扱っていることが確定。1ーオの大海南皇子(A)。2ーウの近江大津宮は天智天皇の事業(A)。弟を捕らえ処罰しようとした天智を諫めた「大臣」は3ーエの中臣鎌足いさとなる(B)。鎌足は改新政治では内臣だが、死に臨み、藤原の姓、大織冠のほか大臣の位を賜たまわっている。大海人側についた大伴御行を選んでしまうミスを犯さぬこと。4ーアの大友皇子、5ーイの倭・百済軍と唐・新羅軍、6ーエの7世紀後期の3題は正解をだすこと(A)。

続いて、史料(3)「慶長五(1600)年」の「家康」から「大崎少将(伊達政宗とのルビ)」への書簡。「濃州」・「島津」・「小西(行長とのルビ)」・「石治部(石田三成をさす)」を「悉ことごとく討捕り」とあるので関ヶ原の戦いと容易に判明。7の正誤問題のオは(B)レベル、アの秀忠→家康、イの元就→輝元、ウの隆景→秀秋、エの尾張→美濃と誤りを探す消去法でいく。8の家康の戦績も(B)レベル、イの桶狭間の戦いでは今川軍の先鋒であったことは理解しているが、オの武田討伐に参陣したことは迷った人も多いだろう。織田・徳川の同盟とその後の家康の領地が甲斐・信濃が増加していることを思い出したい。

B. 1の庚午年籍、3の坂上田村麻呂は(A)レベル。2の「備前中納言」宇喜多秀家は、関ヶ原で直接戦っていること、五大老から家康・利家・輝元・景勝を消去してく、本拠地が備前であることから引き出す。記述問題でもあり、少し難解である(C)。

【II】

予想配点 14 / 70点	時間配分の目安 15 / 60分
出題分野・テーマ 江戸後期の経世思想	
使用されている資料 史料・図版	
出題形式 選択・正誤・記述	
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	
高3生：前期6・7月期近世。夏期講習文化史。後期10月期文化史で履修。	

●解答のポイント&学習対策&小問別等

※文章中、C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、で問題難易度を示す

史料問題の場合、出典から時代やテーマを絞り込んでいくのも解法の一つ。只野真葛ただのまくず(1763-1825)『むかしばなし』とあるから江戸後期と特定できる。只野真葛の「父様」は仙台藩医の工藤平助である。真葛は、父から海外の知識を学び、只野家に嫁ぎ、国学を中心に女性の自立を説いた。

A. iーbの工藤平助は史料を読んでいき、ヒントを探す。仙台遷都論・「田沼時代」・田沼の公用人に「蝦夷国」を「開き」などから工藤を選ぶ(B)。iiは設問で松前藩と指定すべきであるが、それをしていないので悪問になりうる。本来cの一時期直轄(1807-21)を選ぶが、松前はdの戊辰戦争で最後の戦闘五稜郭の戦いがあったことも事実(松前藩は1855年に移封)。したがって(C)レベルとする。iiiーaの青木昆陽の問題も、簡単なようで実はきつい(B)。蘭学者となる青木昆陽が師事したのは伊藤仁斎の子東涯である。ivーeの服部南郭なんかく(徂徠の弟子で詩文派)は難解であるが、消去法でなんとか解ける

Benesse® お茶の水ゼミナール

(C)。a の山鹿素行は古学の先駆、b の中江藤樹は陽明学、c の尾藤二洲と d の松永尺五は朱子学の学者である。v - d の 鯧 鮓 は、ほしか(干鰯)と同じ魚肥である(B)。賀茂真淵の著書といえばvi - c 国意考(A)、または万葉考。viiの火事で巨富を築いた江戸の材木商はbの河村瑞賢、「淀のきりぬき」、東淀川最下流の河口も切り開いた(B)。aの紀伊国屋文左衛門を選ぶ人も多はず。紀伊国屋は紀州熊野出身。次にviiiは、同学部では珍しい写真問題「南鐮八片で小判一両と換える」とあるので、aの金貨の額面価値をする最初の銀貨という、南鐮二朱銀の特性を選ぶ(A)。

B. ixの蘭学事始は(A)、杉田玄白が弟子大槻玄沢のために書いたことも覚えておこう。xは「江戸」とあるので、箱根ではなく、玉川用水(B)、xiは日本国王、確実に取りたい(A)

【Ⅲ】

予想配点 14 / 70 点 (論述9点)	時間配分の目安 15 / 60 分
出題分野・テーマ 『米欧回覧実記』にみるビスマルクの国際関係論	
使用されている資料 史料	
出題形式 選択・組合せ・論述問題	
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	
高3生：前期7月期近・現代。夏期講習近・現代史Ⅰ。後期冬期講習対外交渉史Ⅰ・Ⅱで履修。	

●解答のポイント&学習対策&小問別等

※文章中、C難問、B可否を分ける問題、A正答すべき問題、で問題難易度を示す

史料を読み、その意見から人物を特定する問題だが、近・現代に入ると史料そのものは易しくなるものの、日本史の範囲内において、世界史の知識を養っておく必要を説いた問題。

A. 1 - エのビスマルクはプロイセン首相として1871年ドイツ帝国の統一を実現した(B)。岩倉使節団が離日した年である。2は「列国ノ権利ヲ保全スル典常」からウの国際法を選ぶ(A)。3はビスマルクの铁血政策のような姿勢を明治政府が採用したのが、i - アの黒田清隆の演説に始まるii - コの超然主義である。著明な黒田の超然主義演説を史料に配している(A)レベルと判断する。二問正解で得点の完答とする。4は遣欧使節団の副使のイの木戸孝允とエの大久保利通を選ぶ(A)。出典の筆者久米邦武がのち起した筆禍事件の契機となった著書といえば、イの「神道は祭天の古俗」(1892)を選びたい(B)。

B. 条約改正達成の条約(年号と外相120字以内)

簡単な論述のお作法と近年の同学部の過去問をこなしていれば、ストレスなく展開できるはず(A)。

(ポイントと思われる部分には下線を施した)

1894年、日清戦争直前に外相陸奥宗光が、イギリスと日英通商航海条約を調印して、領事裁判権の撤廃と最恵国待遇の相互平等を実現した。また関税自主権は、1911年小村寿太郎がアメリカと新たに日米通商航海条約を更新する際に完全回復した。

【Ⅳ】

予想配点 14 / 70 点	時間配分の目安 10 / 60 分
出題分野・テーマ 大正・昭和初期の対中外交 - 第一次大戦への参戦・九カ国条約・対支政策綱領 -	
使用されている資料 史料	
出題形式 選択・記述	
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	
高3生：前期夏期講習近・現代史Ⅱ。後期冬期講習対外交渉史Ⅱで履修。	

Benesse お茶の水ゼミナール

●解答のポイント&学習対策&小問別等

※文章中、C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、で問題難易度を示す

史料(1)と(2)は頻出、史料(3)も出典が明記してあるので、身につけた知識を用い、一問一答式で対応していけば良い。

- A. 1ーニの英国の依頼を受け、2ーイの加藤高明が日英同盟の情誼を理由に参戦を決定したのは(A)レベル。3ーロの九カ国条約の九カ国にスペインが含まれないことは、大航海時代の南蛮人の世界雄飛を思い出す。ポルトガルはアジアへ、スペインは新大陸に進出した(B)。両者が出合ったのが日本である。4ーハの中国同盟会の東京で結成は(A)レベル。5ーニは門戸開放宣言を発表した(ジョン＝)へイ。正解を出したい(A)。6ーホの済南事件は第二次山東出兵中に日本軍と北伐軍が衝突した事件(B)。7の「(東)三省の有力者」とは満州の口の張作霖は容易に答えられるはず(A)。8のハの満鉄平行線は、1920年代後半の中国側の国権回復運動で登場した(B)。
- B. aの青島(チンタオ)は、これしかない(A)。bの石井菊次郎は次の誤字だけ注意(A)。cのモラトリアム(支払猶予令)も必須事項であり、落としてはいけない(A)。

【V】

予想配点 14 / 70 点	時間配分の目安 10 / 60 分
出題分野・テーマ 戦後政治史一歴代首相の所信表明・総裁選政権表明一	
使用されている資料 史料	
出題形式 選択・記述	
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	
高3生：後期9月期戦後史。後期冬期講習対外交渉史Ⅱで一部履修。	

●解答のポイント&学習対策&小問別等

※文章中、C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、で問題難易度を示す

史料をざっとみて二・三の首相や政策を特定できるが、設問で確認しながら解いていくのが良い。

- A. 史料1は鳩山一郎の演説。問(1)の農相は、日ソ共同宣言にも同席したイの河野一郎(B)。問(2)はエの防衛庁・自衛隊の発足(1954)を選ぶ。前内閣の第5次吉田茂内閣の政策(A)。

史料2は岸信介の演説：問(3)は消去法でいく。ア(1954)は第5次吉田茂内閣、イ(1965)とエ(1971)は佐藤榮作内閣、ウ(1964)は池田勇人内閣なので、オのインドネシアとの平和条約・賠償協定(1958)を選ぶ(B)。同内閣が東南アジアに経済進出をはたしていることを補助材料にしたい。問(4)安保闘争で来日を取りやめた(1960)のはアのアイゼンハワー大統領(A)。

史料3は「寛容と忍耐」から所得倍增計画(1960)を想起できるので池田勇人の演説。問(5)の戦後文化史が手薄な人は苦戦。得意な人でも消去法でやっとなら解ける。ウの「キューボラのある町」(1962)は浦山桐郎が監督(C)。アの今井正「青い山脈」、イの溝口健二「西鶴一代女」(1952年ベネチア映画祭で国際賞)、ウの小津安二郎「東京物語」は覚えておきたい。オの黒澤明は「生きる」よりは1951年のベネチア映画祭でグランプリを受賞した「羅生門」のほうが出題頻度は高い。

史料4は自民党の金権体質と派閥抗争を批判した三木武夫の演説。1974年の金脈問題で田中角栄が退陣、自民党への逆風の中、副総裁椎名悦三郎の裁定を受け組閣した。その1976年、問(6)ーイのロッキード事件が発覚した(A)。前首相・最大派閥の長の田中逮捕を許可したとして三木降ろしが起きた。

史料5は社会基盤充実などのため一般消費税導入をはかった大平正芳の演説。問(7)の消費税を実現(1989)した首相は、アの竹下登。これも必須問題(A)。(8)は落とし穴にひっかからないこと。「第2次臨調」の答申で国鉄・電電公社・専売公社などが民営化したのはイの中曽根康弘だが、設置はアの鈴木善

Benesse® お茶の水ゼミナール

幸である (B)。

B. (1)石橋湛山と(2)岩戸景気は、(A) レベル。(3)国連の婦人差別撤廃条約の趣旨に沿う立法といえは男女雇用機会均等法(1985)。対抗馬が見当たらない問題であり、(A) レベルとしたい。